

一般演題 7-1

弘前記念病院における高気圧酸素治療の稼働状況と課題

岩淵 大¹⁾ 田辺 健²⁾ 植山和正³⁾

- 1) 整友会弘前記念病院 高気圧酸素治療室
- 2) 整友会弘前記念病院 麻酔科
- 3) 整友会弘前記念病院 整形外科

【はじめに】

当院は整形外科単科病院であり、2011年9月より高気圧酸素治療（以下HBO）を開始し、第1種治療装置1台で年間約500回の治療を行っている。青森県には高気圧酸素治療装置を保有している施設は7施設あるが整形外科単科病院ならではのHBO依頼状況の内訳や現状、また今後の課題について報告する。

【対象】

2011年9月開始から2015年3月末まで行われた患者を対象とした。

【治療装置】

小池メディカル社製 BARA-MED

【稼働状況】

監督医として麻酔科医の指示のもと臨床高気圧酸素治療技師1名とME2名で治療対応している。初動からの治療依頼110名（再依頼の7名含む）で救急適応81回、非救急件1659回、合計1740回だった。表1

表1 年度別稼働状況（回数）

	救急	非救急	合計
2011年度	12	243	255
2012年度	29	396	425
2013年度	15	499	514
2014年度	25	521	546
合計	81	1659	1740

表2 疾患部位別患者数

脊椎疾患患者	74人
下肢（股 殿部）疾患患者	34人
上肢 肩関節疾患患者	2人

【疾患部位別の患者数】

表2

【治療日】

月・火・木・金で水曜は救急適応患者のみの対応である。治療人数は4人/日としている。

【代表的な一例】

患者X代男性、X-34歳にスキーで左膝前十字靭帯損傷。46歳に左膝痛増悪で外傷後の変形性膝関節症（OA）と診断受け左TKA施行。半年後に膝痛と腫脹出現しTKA後の感染と診断され洗浄デブリードマン、持続灌流チューブ留置する。その後も抗生剤治療を行ったが炎症再燃したためHBOを併用した。計12回施行し、徐々に患部の腫脹と発赤の鎮静化と膝痛の消失を認め退院となる。

【課題】

遅発性関節炎の治療は完治が難しく山見1)らは骨髄炎と抗菌剤を併用したHBOの有効性を示しており、本学会におけるエビデンスレポート2)でも推奨されている。整形外科疾患領域でも脊椎疾患では神経への高気圧効果が有効とされ、当院でも受傷直後の脊椎損傷患者や脊椎腫瘍摘出後の患者の効果を目の当たりにすることもある。しかしながら病院収益の面からは整形外科単科病院における救急適応となる対象は少なく運営としては厳しい状況にある。また疾患によっては効果が望まれるにも関わらずHBO依頼のない時もある。院内での認知度はあるが依頼に至らない時は必要性を訴えていく必要がある。

【結語】

救急適応の症例を増やしていきたいと思っているが当院ではなかなか難しい状況にある。また保険点数の非救急200点ではこれからも厳しい運営が見込まれる。将来的に保険点数の改善向上を願いながら今後も症例数を増やしHBOの効果を検証していきたい。

参考文献

- 1) 山見信夫, 他: 高気圧酸素治療と抗生剤の併用による慢性化膿性骨髄炎の治療, 日高圧医誌1999; Vol. 34No2 109~114
- 2) 合志清隆, 他: 高気圧酸素エビデンスレポート2013. 日本高気圧環境・潜水医学誌2014 Vol. 49No1 3~16